

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成 29 年度
ゲノム病理標準化センター
第 11 回 病理標準化センター講習会 報告書

於 東京大学医学部附属病院 中央診療棟Ⅱ 7階 大会議室

平成 29 (2017) 年 9 月

第 11 回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

「ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成」を目的とした「平成 29 年度 第 11 回ゲノム病理標準化センター講習会」を 2017 年 9 月 23 日（土）、東京大学医学部附属病院 中央診療棟Ⅱ 7 階 大会議室にて開催した。

本年度、本拠地である東京大学で最初となる今回の講習会の参加者は 87 名、内訳は病理医が 27 名、臨床検査技師が 48 名、臨床医が 8 名、その他が 4 名（口腔病理医 2 名、遺伝診療部医員、病理在籍研究者）であった。

はじめに東京大学医学部附属病院 病理部・病理診断科 副部長 佐々木毅が本講習会のこれまでの経緯や目的、AMED の Medical Arts、ゲノム医療実現プロジェクトおよびそのために必要な Data sharing 等に関して説明し、挨拶とした。続いて、日本医療研究開発機構 基盤研究事業部 部長 加藤治氏よりご挨拶をいただいた。

講義では、「ゲノム医療実現に向けたオーダーメイド医療の実現化プログラムの取り組みと病理組織バンキングの構築」として、東京大学医科学研究所 所長 村上善則氏にご講演いただいた。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、九州大学大学院医学研究院 形態機能病理学 教授 小田義直氏より「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演を行った。

次いで日本病理学会のAMED委託事業である実証研究に関して、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して、慶應義塾大学医学部 病理学教室 教授 金井弥栄氏よりご講演いただいた。

いずれの講演もアンケートの評価は高いものであり、質疑応答でも検体の保持・保管方法を中心に活発に行われた。また、実習も含めた講習会の開催を増やしてほしいという要望が会場内で多く聞かれ、今後の課題と考えられた。

なお、アンケート集計結果は各講師にフィードバックしているが、その意見および新たな実証実験結果をもとに毎回講演内容が更新されており、テキストの「固定」による経費削減等は困難であると考えます。

講習会の終了にあたり、聴講生には修了証書が配布された。また聴講生 1 人 1 人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧と e-ラーニングが受講できるように専用の ID、パスワードを配布し受講を促した。

(文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅)